



針供養 12月8日は針供養です。

「事八日」に1年間お世話になった道具を片付け、供養する風習があります。

道具の供養として代表的な行事が「針供養」です。

「針供養」は12月8日に行う地域と2月8日に行う地域があり様々ですが、

東日本では2月8日に西日本では12月8日に

行われる事が多いようです。この日付の違いは、

「事始め・事納め」の捉え方の違いが影響しています

針は着物の時代の大切な道具。江戸時代に針の労をねぎらい

裁縫上達を祈る祭りとして広まりました。

針仕事は女性にとってとても大切な仕事でしたので、

お世話になった折れた針や古くなった針を、

感謝の気持ちを込めて柔らかい豆腐やこんにゃくに刺し、

川に流したり、神社に納めたりして、裁縫の上達を願いました。

また、色白の美人になる、まめに働けるようになるなど、由来には諸説あるようです。

東日本では、「事八日」に妖怪や厄神が家を訪れるので身をつつしむ日とされ、

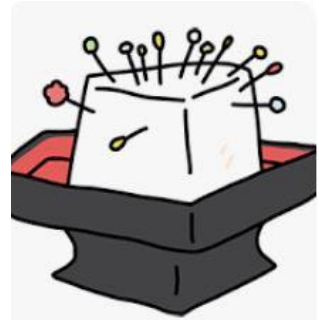
この日は一日、針に触れないようにしました。江戸の町では、

妖怪や厄神を追い払うまじないとして、目籠をくりつけた竹竿が町中に立ち並んだそうです。

また、「お事汁」というみそ味の汁ものを魔よけのために食べる習慣もありました。

現在でも、事八日には目籠やニンニクなどを庭先に置くという

風習が残っている地域もあります。



---

師走を迎え、日々寒さが増してきました。12月5日は納めの水天宮にあたります。

「水天宮」(すいてんぐう)は、福岡県久留米市の水天宮「久留米水天宮」を総本社として、古来、

農業、漁業、航海業者間に信仰が篤いのみならず、

子供の守護神、安産の神として、また、病難、水難除け、

火災などの除災招福の神として信仰されてきたそうです。

毎月5日が縁日となっています。一年最後の縁日である12月5日が

「納めの水天宮」ということで、多くの参拝客で賑わうそうです。



---

【お知らせ】冬期閉園時間について

早めの日没の為、12月と1月は

閉園時間午後4時とさせていただきます。

